

氏名	立古浩雅
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲 4821 号
学位授与の日付	平成 25 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	A Comprehensive Analysis of 174 Febrile Patients Admitted to Okayama University Hospital (岡山大学病院における不明熱患者の検討：原因疾患の 特徴と検査の有用性の解析)
論文審査委員	教授 山本 和秀 教授 森松 博史 教授 松下 治

#### 学位論文内容の要旨

近年の検査の進歩はめざましいが日常診療において診断困難な原因不明の発熱症例を経験することは多い。我々は 2004 年から 2010 年までの 7 年間に熱源不明の発熱 (>37.5℃) の精査目的で総合内科に入院した 174 名に関し解析を行った。原疾患を感染 (細菌性・非細菌性)・炎症 (非特異的炎症・膠原病)・腫瘍・薬剤性・不明の 7 群に分類し、各群の傾向と診断目的に施行した各種検査の有効性を検討した。原疾患は、感染>炎症>腫瘍の順に多く、薬剤性を 6%に認めた。発熱は非細菌性感染・膠原病・原因不明例で軽度 (<38.0) であった。発熱の程度と CRP 値が弱い正相関を、発熱の程度と罹患期間は逆相関を呈した。有効性の高い検査は FDG-PET と生検であったが、培養検査では低かった。現病歴と基本検査から原疾患をある程度分類し、疾患カテゴリーを考慮しながら各施設で実施可能な検査を進める事が診断に有効である。

#### 論文審査結果の要旨

本研究では、不明熱の精査の目的で入院した 174 例について、診断に有用な検査について解析し、診断に有用なアルゴリズムについて検討した。

原疾患を感染 (細菌性・非細菌性)、炎症 (非特異的炎症・膠原病)、腫瘍、薬剤性、不明の 7 群に分類し、各群の特徴と診断目的に施行した検査の有用性を検討した。原疾患は、感染>炎症>腫瘍の順に多く、薬剤性を 6%に認めた。発熱は非細菌性感染、膠原病、原因不明で軽度であった。発熱の程度と CRP 値は弱い正の相関、発熱の程度と罹患期間は逆相関を示した。本研究では、7 群において認められる特徴のある臨床所見や検査を解析し、その特徴を参考にアルゴリズムを考案した点で興味深い。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。